

私大環協ニュース

私立大学環境保全協議会
第73号 2022.12

Environmental Protection Association of Private Universities NEWS

私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities

第35回夏期研修研究会

2022
8/25木 講演会
(オンサイト・ライブ配信・オンデマンド配信)
26金 グループ討議(オンサイト・オンライン併用)

オンサイト会場 早稲田大学研究開発センター(121号館)
〒162-0041 新宿区早稲田町5-13
<https://www.waseda.jp/inst/research/innovation/building121>

8/25 講演会プログラム	8/26 グループ討議
<ol style="list-style-type: none"> 開会挨拶 13:00-13:10 開催挨拶 13:10-13:20 特別講演 13:20-14:20 (60分) 「脱炭素時代の環境政策 —環境政策50年を振り返りつつ—」 早稲田大学法学部教授 森本 幸彦 氏(環境事務局長) ◎休憩・デモ展示見学 (10分)◎ 研修講演 14:30-15:20 (50分) 「2050年に向けたエネルギー政策の動向と 大学への期待」 経済産業省資源エネルギー庁 エネルギー・新エネルギー部 副 長 官 藤田 啓一 氏(環境事務局長) ◎休憩・デモ展示見学 (10分)◎ 話題提供 15:40-16:20 (50分) 「化学物質の大転換「法令準拠型」から 自律的な管理へ」 (西) 労働省健康安全健康 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理センター部 橋内 孝 氏 講演総括 16:20-16:30 デモ展示見学・懇話会 16:30- 	<ol style="list-style-type: none"> グループ討議 9:00-11:30 (150分) I: 教育と連携 <定員 30名: 学生優先 可> (SDG) 本学都市と大学の役割を考える II: 化学物質 <定員 50名> 「新たな化学物質管理体系に向けた対応などについて」 (山) 施設・設備 <定員 30名> 「脱炭素先行地域において大学に求められる役割について」 デモ展示・懇話会 11:30-12:00 キャンパス見学会 12:00-13:00

最新情報はこちら
研修研究会の開催にかかる最新情報やお申込内容の変更はホームページをご覧ください。
<https://www.shikokankyo.jp/>

第35回夏期研修研究会は2022年8月25日26日に早稲田大学研究開発センターにてハイブリッド開催されました。



早稲田大学リサーチイノベーションセンター
(121号館)



グループ討議(オンサイト・ライブ)会場の様子



講演(オンサイト・ライブ・オンデマンド)会場の様子

第39回総会・研修研究会は2023年3月に青山学院大学相模原キャンパスにて対面を中心とした開催を予定しております。p8「事務局だより」をご覧ください。

CONTENTS

環境ニュース●雨宮隆先生インタビュー	2
会員校紹介●星薬科大学	4
会員校紹介●桃山学院大学	5
賛助会員紹介●寿産業株式会社	6
賛助会員紹介●ミヤマ株式会社	7
コラム、事務局だより	8

日本工業大学 NIT-EMS本部 本部長 雨宮 隆 先生インタビュー (同大学 工学部 元教授)



17年かけて築いた環境システムを軸に、 大学独自の環境推進活動を追求する！

地球に優しい企業の証明の一つとして、ISO14001があります。これは環境マネジメントシステムの国際規格です。環境に寄り添った企業活動を行っているほど、環境パフォーマンスの高い企業として認められます。

「首都圏でいちばん人が輝く町」をスローガンに掲げる埼玉県宮代町にある日本工業大学は、2001年にISO14001認証・登録を始め、以来17年に亘り取得を継続してきました。しかし、同大学は2018年6月に独自の環境推進活動NIT-EMS(日本工業大学環境マネジメントシステム)を展開すべく自己宣言を行います。その理由を、日本工業大学のNIT-EMS本部で本部長を務める雨宮隆氏は次のように語ります。

「17年間の環境保護活動において、低炭素社会への貢献や光熱水費のコスト低減、地域社会との協働など、多岐にわたる取り組みを実践してきました。こうした活動が実を結び、エコ大学ランキング『5つ星大学』の受賞や、サステナブルキャンパス評価(ASCC)『プラチナ認証』など、学外からも高い評価を得ることができました。そこで本学では、これまでの実績や評価を踏まえて、環境マネジメントシステムの土台が十分に確立し、環境マインドも学内にしっかり根付いてきたものと判断しました。また、ISO14001は企業の経済活動を念頭に作られた規格です。どうしても大学の活動とは噛み合わない項目が多く、負担が大きかったのも理由の一つです。こうした背景から『大学の本来の目的である人材教育を重点にしつつ、サステナブルなキャンパスの実現を目指す』ことを第一に掲げ、独自の環境マネジメントシステム、NIT-EMSの構築に舵を切ることにしたのです」

そこで最初に取り組んだのが、新しいマニュアルの作成になります。ISO14001の内容を生かしつつ、大学の事業活動に合うように項目をカスタマイズし、より進化した独自のマニュアルにアップデートしていったそうです。

「また、NIT-EMSを評価するにあたって、公平性をどう担保するのかについても議論を交わしました。ISO14001の認証を受けていた頃は、認証機関からの定期的な外部監査を受け入れていましたが、これに代わる監査組織として発足したのが理事会を中心にした『サステナブルボード』で



柳澤理事長による自己宣言説明会(2018年6月1日)

ながら、独自の環境推進活動を追求しています」

SDGsの視点から さまざまな活動をサポート・支援していく

環境マネジメントシステムの目標管理の中に、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の視点を盛り込んでいる点もまた、NIT-EMSの特徴の一つです。雨宮氏はこう解説します。

「NIT-EMSの活動と並行して2020年に発足させたのが、全学組織のSDGs委員会です。委員会の取り組みの一つとして、各学科に対し、学生を巻き込んだSDGsに関連する研究の企画・提案を提出するよう求め、採用された研究には研究費を補助するとともに、進捗をNIT-EMSの目標管理の一つとしてフォローするような仕組みを整えました。紙の廃棄物からキノコを栽培したり、静電気を利用した害虫防除技術など、とても興味深い研究が色々寄せられました」

SDGs委員会は学部の研究活動だけではなく、学生のSDGs活動も幅広くサポートしています。

日本工業大学では、ISO14001認証を始めた2001年に、学生組織として学生環境推進委員会も発足しています。この委員会では、利根川堤防強化を目的とした森づくり、卒業生が寄付していく家電や家具類を整備して新生生に無償で配布するリサイクルショップ、町との協働で夏祭りや子ども大学といった地域活動への参加など、社会課題解決に向



利根川堤防の森づくり



学生のSDGsワークショップ

「海洋環境や生態系に悪影響を及ぼすとされ、特に近年問題となっている海洋プラスチック。この社会課題の知識を習得するに留まらず、実際の活動を通して問題解決に貢献することを目的とした企画です。期間は1週間。まず私が、『海洋とプラスチックの課題』をテーマに講義をしたうえで、新潟地区の学生には関屋浜周辺の海岸部、一方の本学の学生

には、宮代町の遊歩道沿いの川を中心に、それぞれがプラスチックなどのゴミ拾いと、水質の簡易測定を実施しました。最終日には、お互いの結果に基づき、海と川におけるプラスチックごみが及ぼす影響の相違などについて議論を交わしました。初のリモートでの試みでしたが、地理的な距離感を感じさせることなく大いに盛り上がりました。この企画は今年度も参加者を増やし



新潟・関屋浜海岸のごみ拾い



宮代・古利根川のごみ拾い

続けていますが、今後もさらに学生の輪が広がり全国版になればと思っています」

全学共通の教育プログラムでは、2022年4月に実践的な工学教育“カレッジマイスタープログラム”として「SDGs for Engineers」を開設。SDGsへの興味を実際のものづくりとして体験することを目指します。

「本学のNIT-EMS活動では、電力消費の省エネ、廃棄物や化学物質の管理など、環境負荷の管理に関してはマニュアル化すれば、あとはルーティン活動になるので、さほど複雑ではありません。対照的に、学生の活動は実に色々なケースがあり、ルーティン化は難しい。とはいえ、SDGsは幅広い分野と関連付けやすいテーマでもあります。これまでは立ち上げからサポートしてきましたが、今後は、学生自身が

けた幅広い活動に取り組んでいます。この委員会活動とは別に、学生自主団体のプロジェクトもあります。新潟地域の複数の大学との共同プロジェクトで始めた「全国学生清掃週間

(NSCWeek : National Student Cleaning Week)」は、その一つです。2021年9月に行われたNSCWeekの活動について、直接関わった雨宮氏はこう説明します。

「海洋環境や生態系に悪影響を及ぼすとされ、特に近年問題となっている海洋プラスチック。この社会課題の知識を習得するに留まらず、実際の活動を通して問題解決に貢献することを目的とした企画です。期間は1週間。まず私が、『海洋とプラスチックの課題』をテーマに講義をしたうえで、新潟地区の学生には関屋浜周辺の海岸部、一方の本学の学生には、宮代町の遊歩道沿いの川を中心に、それぞれがプラスチックなどのゴミ拾いと、水質の簡易測定を実施しました。最終日には、お互いの結果に基づき、海と川におけるプラスチックごみが及ぼす影響の相違などについて議論を交わしました。初のリモートでの試みでしたが、地理的な距離感を感じさせることなく大いに盛り上がりました。この企画は今年度も参加者を増やし

主体的にテーマを設定して活動しながら教養を深め、高めていく。そうした環境を整えていきたいですし、それこそ大学が行う人材教育の本質だと思っています」

環境意識の高い学生を育成し社会に送り出していくことは、まさに大学特有の環境推進活動と言えます。

会社勤めから研究者へ。 誰も見ぬ世界に足を踏み入れる研究の醍醐味

現在、NIT-EMS本部で本部長を務める雨宮隆氏は、かつて日本工業大学の工学部で教授として教壇に立っていましたが、教授になる以前は会社勤めをしていたと言います。当時をこう思い返します。

「発明家エジソンの自伝はもちろん、電気が造られる原理や電車が動く原理とかに、とても興味がある青年だったと思います。その流れで大学・大学院と進学し、大学院では電車のスピードをコントロールするシステムを研究しました。もう40年以上前になりますが、当時は経済成長のただ中、次々生まれる新しい技術で社会貢献したいという思いが強かったので、研究者の道ではなく、電機メーカーに就職し、エンジニアとして省エネ、新エネのシステム構築に明け暮れる日々を過ごしました」

同大学の工学部教授になってからは、リサイクルや廃棄物エネルギーを専門に研究。特に力を入れたのが、廃棄物をガス化した後、そのガスと特定の触媒を化学反応させることでカーボンナノチューブを作る基礎研究だったそうです。雨宮氏は研究の醍醐味をこう語ります。

「研究成果が論文として世に出るまで、研究で見い出された新しい世界の景色は誰よりも先に自分が、そして自分だけが見ることができる。そして、その研究成果が認められれば、社会に広がっていく可能性がある。これは企業勤めの時には実感できなかった研究のもっとも面白いところです。このことは、学生にもよく伝えていました」

また、「大学では専門的な知識を蓄えることも重要です。しかし、そればかりに偏るのではなく、社会の課題を知り、そのために何ができるかを考えながら、責任感と高い意識を持って巣立って欲しい」と、学生への期待を力説する雨宮氏。ご自身の今後の展望については、こう話します。

「2030年、2050年の脱炭素化社会を地域や個々の自治体でどう叶えていくのか。本学のある宮代町でも、その実現に向けて活動をしていかなければなりません。そうした部分に大学や個人としても関わっていただけたら嬉しいですね」

環境課題の解決に向けた雨宮氏の挑戦は、日本工業大学内に留まることなく、これからも広がっていくようです。

インタビューを終えて

休日は、環境をテーマにしたNPOの会合、勉強会にリモートで参加することが多いという雨宮氏。20年近く続いている水泳では、手の動かし方、手の平の広げ方など、力を使わずに泳げるかを、自分の泳ぎを通して研究しているそうです。

会員校紹介

このページでは毎回、会員である大学の環境問題への取り組みを紹介していきます。

星薬科大学

大学紹介

星薬科大学は、1911年に星製薬株式会社の中に教育部が設置されたことを端緒とする。創設者の星一先生（小説家の星新一先生のご尊父）は「一に人、二に人、三に人、万事人なり。」と人材の育成が大切であるとし、「本学は、薬学を通じて、世界に奉仕する人材育成の揺籃である。」を建学の精神とした。また、大学の教育理念は「親切第一」であり、星一先生は「親切第一を主義として、自己に親切なれ、何人にも親切なれ、物品に親切なれ、時間に親切なれ、学問に親切なれ、金銭に親切なれ、親切は平和なり、繁栄なり、進歩、発明、向上なり、親切の前には敵なし、親切は世界を征服す」と説いたとされる。医療に従事する薬剤師の養成においても重要な理念であると考えられる。



星一先生

キャンパスは、品川区荏原にあり、都営浅草線では戸越、東急池上線では戸越銀座、東急目黒線では武蔵小山が最寄り駅である。都市部に位置しているにもかかわらず、薬学において欠かすことのできない薬用植物を栽培

するために、都内では有数の規模を誇る薬用植物園を有している。約3,000平方メートルの園内に有用植物約800種が栽培されている。また、樹木園、水生植物園、標本園、野草園、温室などに分けられており、一般の方々の見学や、区民公開講座の場としても活用されている。さらに、正門から正面の本館（世界的な建築家 アントニン・レイモンドによる設計）に至る道は銀杏並木となっており、都内の大学でありながら自然環境に



薬用植物園



星薬科大学本館



銀杏並木

恵まれ、地域の環境保全に努めている。

環境教育は、薬剤師国家試験の一分野である衛生分野の担当教員が行っている。衛生化学は、健康と環境に分かれており、地球規模の環境の保全、我が国の公害問題、大気・水質の検査測定、廃棄物についての教育を行う。学生は医療系の大学であることから医療廃棄物の処理、実験系の研究室が多いことから排水や廃液の貯留と産業廃棄物の排出について学び、環境に配慮をした研究を指導している。PRTR制度やマニフェスト制度についての教育も衛生分野の担当教員が行っている。

星薬科大学では、規模は小さいものの環境保全センターを整備しており、上水水質の検査や、排水水質データの管理、廃試薬や廃液の適切な管理を行っている。本学の環境への取り組みを受験生や地域の皆様に広報するため、現在、環境保全センターのホームページを作成している。私立大学環境保全協議会の研修研究会を通じて得た環境への取り組みについて、今後の大学の環境保全への取り組みに活かしていこうと考えている。

桃山学院大学



GOOD DESIGN AWARD 2021

大学紹介

桃山学院大学は「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民として広く国際的に活躍し得る人材の養成」を教育理念として掲げ1959年に開学しました。現在は大阪府泉州地域にある和泉キャンパスに5学部(経済・社会・経営・国際教養・法)、2020年に大阪市内に竣工した聖テモテ館内にある新キャンパス「あべのBDL(ビジネスデザインラボ)」に設置したビジネスデザイン学部の計6学部を有し、約6,700人の学生が所属しています。あべのBDLは従来の教場とは異なり、近年企業等でワーキングスペースとしても取り入れられている、交流と共創を促す最新のフロア設計になっています。



2020年竣工の聖テモテ館(2021年度グッドデザイン賞受賞)



その中で学生は企業・行政・団体との連携やチームでのコミュニケーションを通して、単なるモノづくりではなく新しいビジネスをつくる力を学び、社会の変化に対応していける力を学んでいます。

「環境宣言」に基づく取組

桃山学院大学では2000年に環境問題に取り組む「環境宣言」を制定しました。その宣言に基づき、省資源や省エネルギー・ゴミの削減など環境負担の低減と循環型社会の実現を目指し、高効率型設備への更新やコージェネレーション設備の導入によるピークカット対策、エネルギー使用量削減を目的とした効率的な空調運転管理の実施、環境問題をテーマにした講演会や映画上映による啓蒙活動などに取り組んでいます。その成果もあり、2021年度にはおおさか気候変動対策賞を受賞、その他経済産業省による関西地区 国公立法人・学校法人事業者省エネ評価(2017年度から4期)において省エネ優良事業者に認定されています。



和泉キャンパス

賛助会員紹介

寿産業株式会社



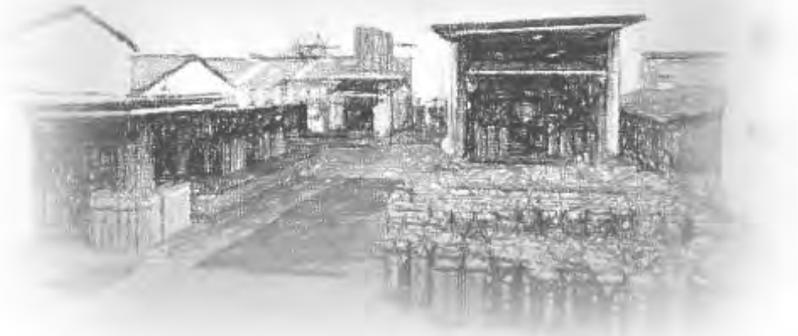
寿産業は1983年の創業以来、首都圏エリアを中心とした生産現場、研究所、大学、その他あらゆる産業用ガスをご使用されるお客様にポンペー本から関連機器、設備など幅広く丁寧にお届けしてまいりました。

電化製品に欠かすことのできない半導体をはじめ、自動車や食品、さらには医療や環境、宇宙技術に至るまで、産業ガスはあらゆる分野の製品に利用されています。

お客様が必要な時に必要な場所で危険物であるガスを安心してご使用いただける提案をする事、それが我々のできる社会貢献と考え日々取り組んでおります。

【会社概要】

- 会社名：寿産業株式会社
- 設立：1983年10月
- 事業所：大森本社 大田区大森南4-11-15
城東支店 江東区亀戸7-67-18
- 株主：株式会社巴商会 100%
- 社員数：21名(2022年9月)



【事業案内】

- 高圧ガス、液化石油ガス、化学工業薬品、医薬品、高圧ガス供給設備・機器、溶断機器の販売
- 各種高圧ガス配管工事及び附帯工事一式
- 前記各号に附帯又は関連する一切の業務

【環境への取り組み】

巴商会グループの一員として、環境マネジメントシステムに則り効果的な運用と継続的な改善を推進し環境への汚染予防に努め、安心と安全を社会に提供してまいります。また、高圧ガス関連の専門商社であることを活かした社会課題解決にも積極的に取り組んでおります。

- 環境商材の拡販
- 環境配慮型の新商品展開
- グリーン水素を含む水素活用による脱炭素社会への取り組み(次世代輸送システムの開発)
- ライフサイエンス事業への取り組み(省エネ型超低温保存容器、低温資料の輸送サービス)
- 水産事業への取り組み(ガス溶解技術を活用した陸上養殖)



酸素溶解技術を活用した陸上養殖

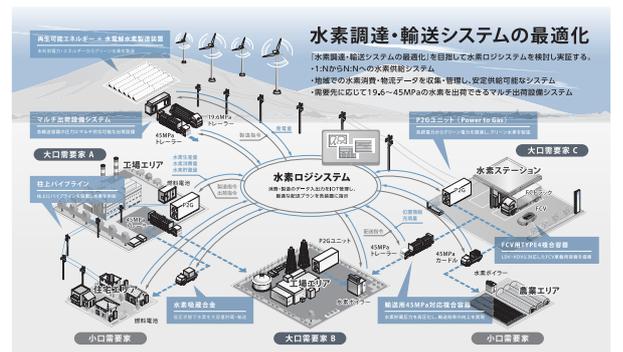
LN2消費なし
100V電源のみで稼働

100V電源のみ
極低温保持
エネルギーグリーン

SDGs&脱炭素社会の推進に貢献

LN2充填作業なし、作業効率UP&人力削減

省エネ型超低温試料保存容器 Fusion





CLEAN PRODUCTS®

独自の発想と技術で環境問題の無い社会の実現を目指しています

当社は総合環境企業として、産業廃棄物のリサイクル・中間処理、環境プラントの設計・施工、環境機械の開発・販売、汚染土壌の調査・対策、工場設備等の特殊メンテナンス、環境分析、の6つの事業を軸にサービスを提供しています。中核となる産業廃棄物のリサイクル・中間処理事業では、これまでに蓄積してきた化学物質に対する知識・ノウハウを活かし、廃棄物の特性に応じた最適な

処理を実施。現地で本格的な化学分析を可能とする移動分析車も備え、研究施設等に保管された成分の不明な化学薬品等も安全に処理を行います。また、脱炭素社会を実現するエネルギー分野の独自技術として、廃棄物を処理する際の化学反応熱を使った発電や廃棄物を原料とした水素の製造等を実用化するなど、環境問題の無い社会の実現に向け、未来を創る環境技術の開発を進めています。

■会社概要

〈創立〉

昭和 49 年 12 月 17 日

〈代表者〉

代表取締役 南 克明

〈資本金〉

1 億円

〈従業員数〉

521 名

〈事業所 / 工場〉

本社

R&D センター

工場 / 長野・新潟に 5 箇所

営業所 / 全国 24 箇所

〈関連会社〉

ミヤマ商事株式会社 (損害保険代理店)、土田食品工業株式会社 (食品用ろ過材製造業)

M' S MOTOR GARAGE 株式会社 (自動車整備業)、株式会社花伝舎 (緑化・農業事業)

〈認証〉

ISO9001/ 環境検査計測事業部

ISO14001/ 本社、大町工場、EM 開発センター、長野テクノセンター、

中野工場、上越工場、分水工場、燕工場、燕リサイクルセンター、

物流センター (秋田・東京・小牧・大阪・京都)、

全国 21 営業所

ISO45001/ 本社 (環境整備事業部 / 物流事業部)、中野工場、

上越工場、分水工場、燕工場、燕リサイクルセンター

ミヤマ株式会社 本社

〒381-2283 長野市稲里一丁目 5 番地 3 TEL 026-285-4166

ホームページアドレス / <https://www.miyama.net/>

E-mail アドレス / koho@miyama.net



コラム

工学部の学生の頃、実験でさまざまな化学物質を扱っていたが、有害性等についての教育等を受けた記憶はない。実験装置に取り付けていた水銀マンメータの水銀を吹き飛ばして頭からかぶったり、ジクロロメタンやベンゼンなど発がん物質を含む溶剤を局排のない部屋で素手で扱ったり、断熱材として用いたアスベストテープをパイプに巻くときに飛散したアスベスト繊維で首まわりがチクチクするのに耐えながら実験を行うなど、今では考えられないような状況で研究を行っていた。M2のとき、実験室を引っ越しすることになり、部屋の清掃をしていたところ、床に水銀が転がっていた。スポットで吸い取って空き瓶を集めると瓶の1/5程度溜まったので、100mL以上あったと思う。これが実験室床全体に散らばっていたので、当時、毎日かなりの量の水銀蒸気を吸っていたと思われる。1972年に労働安全衛生法(安衛法)が制定され、1976年に作業環境測定基準が告示されているので、ちょうどそのころ作業環境測定も始まったはずであるが、国立大学は安衛法の対象外であったし、私立大学も当時はほとんど作業環境には関心がなかったと思われる。もちろん、それまでも水俣病をはじめ化学物質による健康被害は多く起こって

いたが、他人事で自分のこととしては受け止めていなかった。産業医大に赴任して労働衛生工学に関する研究をするようになって、これまで使っていた化学物質がいかに危ないものかということを知るとともに、労働衛生教育がいかに重要かということを知った次第である。

それから半世紀近くが経過し、現在、厚生労働省は、危険有害性が確認されている全ての化学物質について、事業者のリスクアセスメントに基づく自律的管理により、化学物質のばく露を基準値以下にすることを義務化する施策を進めている。大学のように少量多品種の物質を非定期的に扱う実験室等では、定常作業を前提としている作業環境測定に基づく管理では不十分で、大学の状況に合った管理がふさわしい。特に、大学は安衛法の対象外である学生が重要な役割を果たしているため、学生を含む化学物質の自律的管理の仕組みを私大環協として構築する必要があると考えている。

私立大学環境保全協議会顧問 保利 一
(産業医科大学 名誉教授)

事務局だより

第39回 総会・研修研究会ご案内

【会場】 青山学院大学相模原キャンパス
〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1
TEL:042-759-6060(庶務課施設担当)



【総会】 総会のみライブ配信で参加する場合は参加費不要です。

2023年3月16日(木)13:00~13:30

【研修研究会】(参加費:1名4,000円)

[第1日] 2023年3月16日(木)

1. 開会挨拶 13:40~13:50
2. 開催校挨拶 13:50~14:00
3. 特別講演 14:00~14:50
＜デモ展示見学・休憩 10分＞
4. ウェルビーイングに関する講演 15:00~15:50
＜デモ展示見学・移動 20分＞
5. グループ討議 16:10~17:10
6. デモ展示見学・懇話 17:20~18:00
(飲食のご提供はございませんが、参加者同士の名刺交換・懇話のためのスペースをご用意する予定です。)

[第2日] 2023年3月17日(金)

1. グループ討議 9:30~11:30
※I~IIIグループから一つ選択してご参加ください。

I: 教育と連携

「SDGs未来都市と大学の役割を考える(横浜市)」

2018年に内閣府より「SDGs未来都市」に選定された横浜市は、「Zero Carbon Yokohama」を旗印として脱炭素化と、SDGsの達成に向けた環境・経済・社会的課題の統合的解決に取り組んでいます。今回は、その取組事例に関する紹介講演を参考に、持続可能な開発とまちづくり、地域連携と大学の役割について意見交換を行います。

II: 化学物質「新たな化学物質規制体系に向けた対応について」

前回のグループ討議で取り上げた化学物質規制体系の見直しについて、最新情報をもとに改めて取り上げ、複数のグループに分かれて、テーマに応じた意見交換などを行うことを予定しています。

III: 施設・設備

「ウェルビーイングの観点から考える大学経営、施設の整備・維持管理」

環境や健康への意識の高まりをうけ、持続的で多面的な幸福を意味する「ウェルビーイング」の観点から、大学経営、施設の整備・維持管理について、講演、意見交換などを行います。

＜デモ展示見学・移動 20分＞

2. 青山学院大学相模原キャンパスの紹介等 11:50~12:20
3. 閉会挨拶 12:20~12:30
4. キャンパス見学会 13:30~14:30

講演会は、来場ならびにオンラインライブ配信(Zoomウェビナーを予定)でのご参加が可能です。また、後日オンデマンド配信も予定しております(要事前申し込み)。グループ討議につきましては、2日間の開催とし、対面でのご参加を基本といたしますが、オンラインでのご参加についても準備・検討しております。

講演会・グループ討議の詳細は、開催案内(1月13日配信予定)にてお知らせいたします。プログラム等は変更となる可能性がありますので、最新の情報を協議会ホームページにてご確認ください。なお、講演会来場者への資料配布は行いませんので、事前配信資料をご利用ください。

私大環協ニュース

第73号 2022年12月発行

発行・編集



私立大学環境保全協議会

Environmental Protection Association of Private Universities

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学環境保全センター内

TEL & FAX 03-5273-9605

印刷 (株)研恒社



GREEN PRINTING JFPI
P-K10002



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC
www.fsc.org
FSC® C016129



VEGETABLE
OIL INK